

尼崎市スポーツ推進審議会 議事概要
(平成26年度第2回会議)

- 1 開催日時 平成26年7月31日(木)午後3時～午後5時15分
- 2 委員出席状況 出席委員7人 欠席委員2人
- 3 傍聴者 なし
- 4 議事概要

議題(審議事項) 尼崎市生涯スポーツ振興計画後期計画について

委員 施策体系はもっと視覚的に分かりやすい図に改めてはどうか。

委員 競技力向上が言葉でも全然出てこない。体育協会でも全国大会の誘致や指導員の講習会など色々とやっているの、そういったものを施策体系の中で挙げていってはどうか。

事務局 現在は教育委員会で実施しているもののみを挙げており、体育協会やスポーツ振興事業団に委託している事業には触れていないので、そうしたものも入れてみる。

委員 事業を実施するには予算が必要だが、今はどの部署でも予算が削減されている。“スポーツのまち尼崎”と言っているにしてはあまりにも予算がない。

また、現在のスポーツ施設があることすら知らない市民が多いので、もっとPRする方法を考えていかなければならない。

事務局 予算がない中、最低限必要なものは補修しているが、施設の改修費用がついていないのが現状であり、現行予算の中で何とかするしかない。

委員 “スポーツのまち尼崎”の概念自体が曖昧ではっきりしないことが問題だ。

事務局 市民アンケート結果から、スポーツに関心はあっても実施できない方がそれなりにいらっしゃる事が分かった。そうした方にもできるだけスポーツに親しんでいただいて、スポーツに親しむ方を増やすことでスポーツをより普及させるということを考えている。

委員 何を持って“スポーツのまち尼崎”というのかを明らかにすることによって、施策体系も分かりやすく組みなおすことができるのではないか。

委員 健康づくりができる施設がもっと必要だ。公園に、健康を維持増強できるような簡単な施設を置くことで市民の健康増進を図ることができるのではないか。

委員 今は財政的な体力がないので何もかもというのは難しいかもしれないが、何か目玉になるものを後期の5ヵ年でやっていくというのも一つではないか。

委員 球技禁止の公園が多いが、早朝や子どもが帰ってくる午後3時から午後6時までなど、時間帯を区切ったり、フェンスを作ってボールが外に出ないようにするなどして、安全に野球やサッカーができるようにすれば、子どもの体力向上も、お年寄りの健康増進も図ることができるのではないか。今、介護に非常に多くのお金がかかっていると思うが、そのお金を少しでもそうしたところに回すことで、市民が健康になって病院へ行かなくて済むようになれば、良い効果上がるのではないか。

委員 わざわざ出かけなくても、普段行っているところが、行ってみたら変わっていたなど、市民が見て分かりやすい仕掛けや取り組みがあると良い。市民に情報が伝わっていないのが現状であり、もっと身近なところで分かりやすい仕掛けや取り組みがあると、尼崎市が何かやり始めたぞということが市民に伝わるのではないか。

委員 小学校のナイター施設を中学校や高校にも広げて、学校施設を利用する機会を作ってはどうか。

委員 スポーツクラブ21について、文科省は総合型スポーツクラブを地域スポーツの基盤にしると言っているが、尼崎は本当にそれで行くのか、いくならどういうスタイルでいくのか、というあたりを考えていくのも“スポーツのまち尼崎”を明確にしていく一つの方法なのではないか。

以 上